

# 2020年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

## 事業実施報告書

- |     |                                    |
|-----|------------------------------------|
| I   | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び   |
| II  | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成           |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築        |
| IV  | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V   | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成      |

道府県・政令市名【北九州市】

学校名【北九州市立 足立小学校】

1 実践テーマ	Ⅲ・Ⅴ		
2 実施対象者 (学年・人数)	北九州市立足立小学校 <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center;">Ⅲ・Ⅴ 第4学年1組 児童（26名）</td> <td style="width: 50%; text-align: center;">Ⅴ 全学年児童（181名）</td> </tr> </table>	Ⅲ・Ⅴ 第4学年1組 児童（26名）	Ⅴ 全学年児童（181名）
Ⅲ・Ⅴ 第4学年1組 児童（26名）	Ⅴ 全学年児童（181名）		
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科等名 (総合的な学習の時間)</p> <p>② 行事名 ( )</p> <p>③ その他 ( )</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 ( )</p> <p>② その他 ( )</p>		
4 目標 (ねらい)	<div style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">                 スポーツ文化についての体験を通して 自己の生き方について考える             </div> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center; vertical-align: top;">                 Ⅲ 障がいをもっている方と同じ条件で パラ種目を体験し、障がい者への理 解を深める。             </td> <td style="width: 50%; text-align: center; vertical-align: top;">                 Ⅴ 友達と共にパラ種目を体験し、スポー ツの楽しさを味わい、スポーツを楽し む心を育む。             </td> </tr> </table>	Ⅲ 障がいをもっている方と同じ条件で パラ種目を体験し、障がい者への理 解を深める。	Ⅴ 友達と共にパラ種目を体験し、スポー ツの楽しさを味わい、スポーツを楽し む心を育む。
Ⅲ 障がいをもっている方と同じ条件で パラ種目を体験し、障がい者への理 解を深める。	Ⅴ 友達と共にパラ種目を体験し、スポー ツの楽しさを味わい、スポーツを楽し む心を育む。		
5 取組内容	<p>今回の事業の採択を受け、今年度は、4年生の総合的な学習の時間の単元、縦割り活動の時間を活用し、以下の2つの柱で取り組んだ。</p> <p>1 障害者への理解を深め、共に生きていくことについて考えを深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ パラリンピックについて話し合い、障害を持った方々のスポーツの祭典であることについて知り、自分の課題を設定した。</li> <li>○ 本やインターネットを使ってパラリンピックについて調べ、その意義について考えた。調べたことを交流し、さらに理解を深めるようにした。</li> <li>○ 調べ活動を進めていくうちに、児童の中から実際にパラリ</li> </ul>		

ンピックの競技の体験をしてみたいという気持ちが高まり、児童が調べたパラリンピックの競技の中から「ゴールボール」の体験を行った。「ゴールボール」をしている動画を視聴し、アイマスクをして競技の体験を行った。

- 体験では、見えない状態で、ボールの中の鈴の音を聞きながら、ラインテープの下に這わせたタコ糸を手で探り、左右に動いてボールを止めようとしていた。
- 自分が設定した課題について、今まで調べてきたこと、ゴールボール体験をして分かったこと等を新聞にまとめ、交流を行った。



2 パラリンピック種目である「ボッチャ」の体験を通して、より身近に感じることで、スポーツへの関心を高めたり、スポーツを楽しむ心を育んだりする。

- 代表委員会で、縦割り活動で行う活動内容を決めるときに総合的な学習の時間でパラリンピックのことについて調べていた4年生が、みんなで楽しめる競技として、ボッチャを提案した。話合いの結果、縦割り活動でボッチャを行うことになった。
- 企画委員会が企画・運営を行い、昼休みの時間に2グループずつ分散してボッチャ体験を行った。投げる順番を固定するなど、みんなが楽しめるようにルールを工夫して行った。
- 体験では、企画委員会の児童や高学年児童が中心となり、下学年の児童に優しく教えたり、声かけをしたりして温かい雰囲気の中で活動することができていた。



## 6 主な成果

- ゴールボールを体験することで、どの児童もゴールボールをする楽しさを味わうことができていた。また、実際に体験することで、目が見えない中でも、音を頼りにしてボールがくる場所を考えている競技者の方の聴覚や集中力の高さを感じていた。振り返りでは、「自分たちはアイマスクをして体験だけけど、視覚障害の方々は普段の生活でもずっと目が見えない状態で生活しているので大変だと思いました。」等、障害者の方の気持ちを想像する感想をもつ児童も多くいた。障害をもっている方の立場になって考える気持ちが芽生えてきた。
- ボッチャ体験では、下学年の児童がジャックボールに近づけ

	<p>て思わぬ活躍をしたり、後で投げたボールが先に投げていたボールをはじいて、勝敗がかわったりして、異学年の児童でもみんなで楽しく活動をする事ができた。ボッチャの競技の面白さを感じることができていた。</p> <p>○ 「近い、近い。」「いいよ、上手。」など、ボールを投げる児童を励ます声かけもたくさん聞かれた。異学年の児童同士でもみんなで一緒に楽しむボッチャを行うことで、児童のスポーツを楽しむ気持ちを育むことができた。</p>
<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>○ 導入時、児童にパラリンピックのことを知らせるときには今までのパラリンピックで選手が競技している写真や動画を提示し話し合うことで、様々な障害をもった方々が参加していることに気付くことができるようにした。</p> <p>○ 本校は、全学年単級の小規模校のため、縦割り活動でボッチャ体験を行ったことで、児童がボッチャは老若男女問わず誰とでも楽しめる競技であることを実感することができたと感じた。</p> <p>○ ボッチャの体験では、密になることを防ぐため、縦割りグループを10グループに分け、1日に2グループずつに分け、計画的に実施した。</p>
<p>8主な課題等</p>	<p>○ 今回は、競技を体験することや本やインターネットで調べる活動が主だったが、やはり実際に競技をしているアスリートの方との交流を設定すればよかった。前期に「オンライン版あすチャレ！ジュニアアカデミー」の紹介があったので、それを活用して、オンラインで話しを聞く機会を設定すればさらに学びを深めることができたと考える。</p>
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<p>○ 本年度の立ち上がりのときには、感染症予防対策のため制限が多く、見通しも立たず、計画が立てづらい状況であった。また、講師の招聘もしにくい状況であった。実際のアスリート等、生の声を聞くことは子どもたちにとって、心に響くものもあり、大きな学びに繋がると考える。来年度もどのような状況になるかわからないため、zoom等、ICTも活用し、ぜひ、そのような機会をつくれるように計画していきたい。</p> <p>○ 本年度は、本校の教諭がゴールボールやボッチャの体験を行った。次年度は、感染症予防対策等を行い、可能であれば、学校の近くに北九州市障害者スポーツセンター「アレアス」があるので、施設の指導者に指導を依頼したり、道具の貸出を利用したりして、さらに効果的に学習を行えるようにしたい。</p>